

評

下

傍

緊
視
念
展

局長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二
二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三
三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四
四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五
五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六
六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七
七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八
八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九
一百	一百一	一百二	一百三	一百四	一百五	一百六	一百七	一百八	一百九	一百十

一四三二八 捷敷

暗號

● 兩西方面、第五各艦隊、第一大隊、第一水戰、
 ● 第六、第九、第一〇各艦隊

機密第二十七〇七五五番電

發 一八羅司令

○三〇〇現場着、○七〇〇這一帶ヲ搜索セルモ艦影ヲ認メズ、一六
 戰隊ノ行動ニ就キ通報ヲ得度
 我一應歸途ニ就ク。

通一七七二二 於九ノ八ノ八〇ノ三ノ一

海軍

第十信課

962

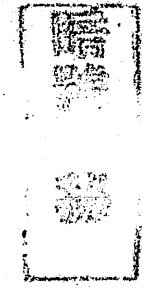
親
○
二八

受信
始
〇〇九八四七
〇九一四四

譯了
〇九四〇
電一四五八五
人事

局・横
人 事 部

三〇特根



機密第二七一

局長						
課長						
A		K				
B						
C						
D						
E						
F						
G						
H						
I						
J						

舊一號輸送艦乘組瀧戸 (夕二五二四) 近藤 (コ四六二) 篠原

(ホ二六五六) ヲ命シタリ (九月十五日附)

三當隊機密第一八一五二六番電中 (九月) 近藤 (コ四六二) 篠原

(ホ二六五六) ヲ削除ス。

通一八〇五八 仁D (一四九三〇K) 三一通 海 軍

第十課

763

親展

一〇二八 受信 一〇九三〇〇 電 一四六六九 人

三〇根

三〇根

人 事 局 舞 鶴

暗號 機

機密第二七一

細丸	番	長	A	L	工勇	石川	松	H
B	K	I	C	O	松	H		
E								

第三十一區潛隊附軍醫大尉天野信夫 主計兵曹長河上正二 第十二

號區潛艇大尉山口德太郎 同畑田 少尉 兵曹長宮武義雄

同齋藤俊雄 機關兵曹長南川甚作 下士官二十六名 兵六十二名

時三〇根據地隊司令部附ヲ命ジ及

(九月二十九日附)

一括發令ノトシテ

永升

通一八〇六七 七D (一四九三〇KG) 卅一通

海軍

第十信課

764

1403



Handwritten mark resembling a stylized '3' or '人'.



親展

一〇二八

受信開始
〇八四三

譯了
〇九一〇

電一四五七四



人事局

第三



根



暗號 秘

機密第二七一五三番電

第十九警備隊附(増勢隊)少尉 木村建三 同 水村金彌 一時三〇
根據地隊司令部 (九月十五日附)

通一八〇五十一 (D) (一四九三〇K) (三) 通

海軍

第十信課

465



海軍省 第二七

一五一〇〇

作保

發信者・大海參一部

- 聯合艦隊口・機動艦隊口・南西方面艦隊口・二三三各艦隊口
- 海上護衛艦口

機密第二七一一二三

局長	副局長	A	B	E	J	G	F
✓	○		○	○	○	○	○
			K	I	C	H	D

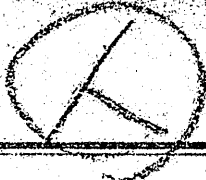
艦隊補給用油糧船ノ喪失補填ハ殆ト望ミナキ寶簡ニ付被害防止上爲シ
 爲ル限リ性急ナル運航ヲ避ケ周密ナル計畫ノ下ニ成ルベク多數ノ直接
 護衛兵力ヲ航空機ヲ含ムテ配スルト共ニ航路附近ノ協力兵力集中ニ餘裕
 ナラズフルニ努メ且敵潛ノ活動熾烈ナル海面ニ於テハ大迂回又ハ夜間避
 泊等ノ斷乎タル措置置キ探ル等極力損耗ヲ防止スル線此ノ上共慎重ナ
 ル考慮ヲ拂ハレ度

通二八四三 月三 A

海軍

766

第十偵察隊



親達急
展

二七

受信一四三〇五
始一四三一〇

譯了一四四五

電一四二四二

人事

◎

宮崎航空基地

◎

横須賀人事部

◎

人

事

局

機密

機密第二七一・二・三・四番電

發 攻擊七〇三飛行隊長

海軍上等兵整備兵曹

坂

井義雄

(横志整第二二五五號)

勤務成績極

テ不良進級不適當ニ付拔擢名簿ヨリ削除ス臨時考課表後送ス。

通一七六四四 留D (鹿屋航空基地)

海軍

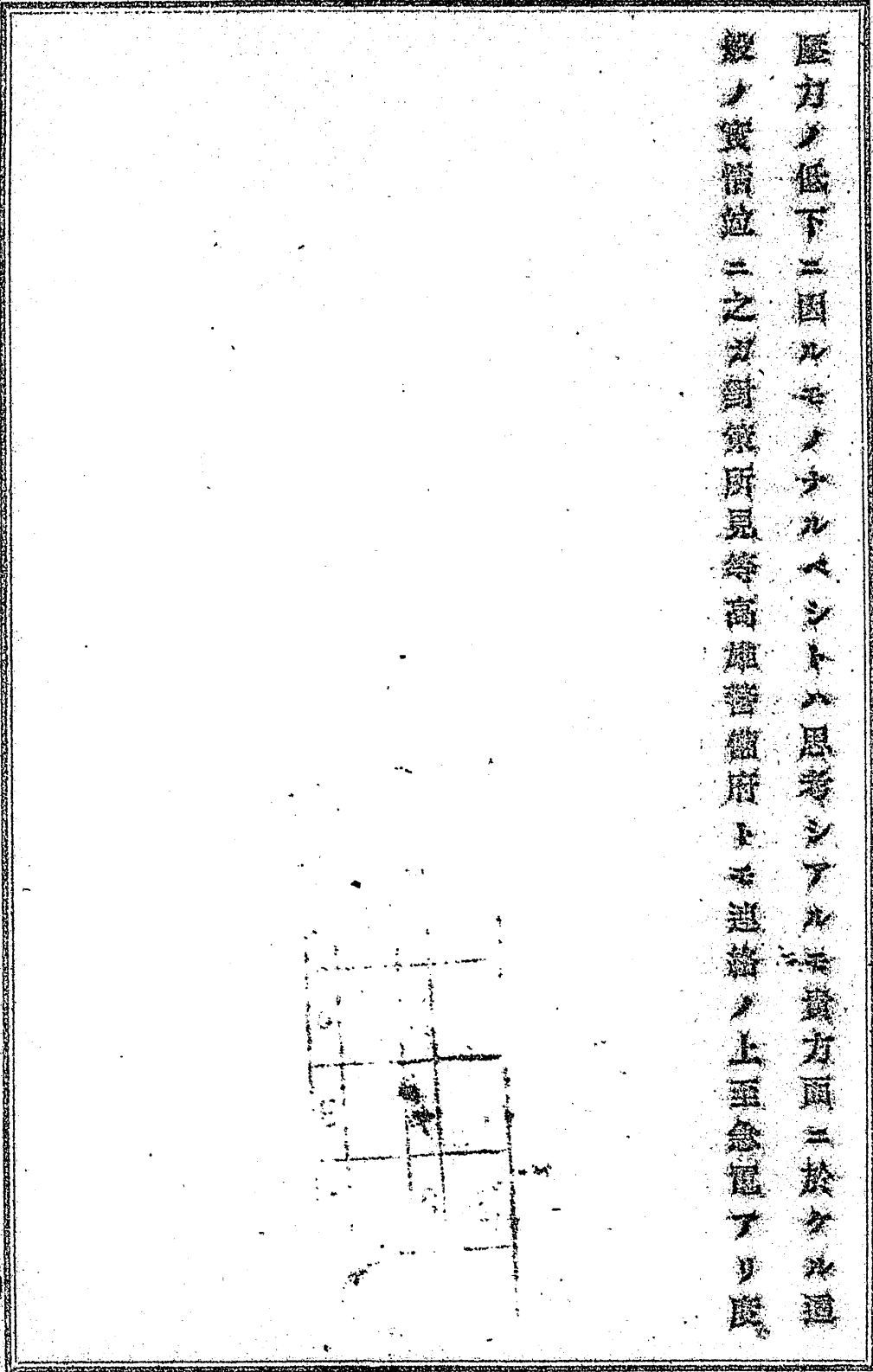
池田 (榛 澤)

96

密

第十信課

歴方ノ低下ニ因ルモノナルハシトハ思考シテ其方画ニ於テ必道
殺ノ實情位ニ之ヲ討策所見等高雄藩領府下ニ連絡ノ上至念電アリ度



海

軍

電信
第十課

1108

作

緊急
注意

百二十七 受備 一六四九 一六五五 一四二九五

無線電廠所用共通符號

● 先遣部隊△・第七機隊

● 大本營海軍部・第四機隊口・機 隊

暗號軍機

機密第二七一四一一番

○F 機令作第三七八號

先遣部隊指揮官ハ七SSBノ二機ヲシテ夫々「トヲマク」及南島島ニ
對シ作戦機送ヲ實施セムベシ。

海軍

海軍

第十信課

967

傍

親展
作特別緊急

受信開始
一七〇五

一七四二
一四三二六
作

無線機所用英通符號

一各遊撃部隊
一機動部隊
・南西方面艦隊

二水戦

機動第二七一室
一二番電

聯合艦隊電令作第三八一號

一第四十一驅逐隊第六十驅逐隊ヲKDMBヨリ除キニYBニ編入ス

二第三十一驅逐隊ヲ一YBヨリ除キニYBニ編入ス

三六淀ヲKDMBヨリ除キ一YBニ編入ス(一YBノ旗艦トス)

四前衛隊ノ各艦ハ速ニ指揮官所定ノ地ニ回航スベシ

通一七七四四 呂二Bラ一五(B)OPD

海軍

第十信線

人

親長 三〇二七

受信二〇〇〇 譯了 電一四四二七 捷作
譯始二〇二〇

緊急

第一聯合基地航空部隊



大海參一部長



機密第二七二番電

貴機密第二六一九一七番電返

神風隊ノ攻撃ハ既ニ實施セラルモ六隊本日實施中ノモ五隊ニシテ
各隊各機種ニ及ボシツツアリテ其ノ報告ハ目下至急取纏中ニシテ各
別々ナルモノハ就中順次電報シ得ル見込ナリ

通一七八一六 呂二五ヲ十五(七四六五K)三一通

III

大子

一〇二八

受信一七六五〇

譯了一七三〇

電一四八〇九

官房・軍務
人事

第十信課

緊急
親展

東

通

機密第二八一

發 二区 參謀長

宛 人事局長

二区 機密第五四號ノ六九關聯

嚴島機雷長少佐安藤（三四九九）殘務整理終了後當司令部附ニ配員方

取計ハレ度

局長	一課長	A	B	E	J	G	F
		L	K	I	C	H	D

但し、本電の内容は、機密第五四號ノ六九關聯の件に關し、人事局長に通知せしむべきものとす。

通一八二七九 呂二Bラ一五八一八三六七五IG(二一)通海

軍

777

一〇二二八 受 始 〇二二三八 譯了 〇三三〇

電電 一四九九〇
一五〇〇六三

聯人捷
空事殿

● 練習聯合航空總隊下、聯合艦隊口、各鎮、各營、南東方面艦隊、
● 大海參一部、海上護衛總口、航空本部、支那方面艦隊口

機密第二八一八一七番電

聯合艦隊電令作第三八四號

局長	局長						
一課長	二課長	三課長	四課長	五課長	六課長	七課長	八課長
A	B	C	D	E	F	G	H

一、第一〇二一海軍航空隊及第一〇二二海軍航空隊ヲ夫々第五基地航空部
隊及第六基地航空部隊ヨリ除キ第一〇一航空戰隊第一〇二一海軍航空
隊第一〇二二海軍航空隊ヲ以テ第一挺身航空部隊（一UFB）ヲ編成
二、第一〇一航空戰隊司令官ハ第一挺身航空隊ヲ率キ主トシテ第五基地航
空部隊及第六基地航空部隊ニ對スル左記輸送ニ任ズベシ

1114

通 一八四五一、一八四六九
一八四七三

呂二B三十五、B（CF）D

795

(イ) 作戰兵力ノ展開輸送

(ロ) 補給器材ノ空輸

(ハ) 人員及軍需品ノ緊急輸送

第一挺身航空部隊ノ基地配備標準左ノ通定ム

第一〇一總隊司令部(厚木) 第一〇八一航空隊本部(厚木)

同派遣隊(小泉) 第一〇〇一航空隊本部(第二鈴鹿) 第一〇二

航空隊本部(新竹同派遣隊) 全航空兵力鹿屋小嶽 第一〇二一航

空隊本部(第一ニコルス) 同派遣隊(クラーク高雄)

四捷號作戰中横須賀 吳 佐世保各鎮守府長官及ABハ第一挺身航空

部隊ノ實施スル作戰輸送及補給器材ノ整備及空輸ニ關シ同指揮

官ノ協議ニ應ジ所要ノ指揮下兵力ヲシテ協力セシムベシ

五第五及第六基地航空部隊指揮官ハ當分ノ間補給機ノ空輸ニ關シ第一

挺身航空部隊指揮官ノ要請アル場合所要搭乗員ヲ派遣空輸ニ關シ

P指揮官ノ所處ヲ受ケシムベシ

(四)

六第五及第六基地航空部隊指揮官ハ所要ノ場合DVZ所在ノ第一挺身航空部隊兵力ヲ指揮スルコトヲ得

七附 令

- (イ) 第一挺身基地航空部隊指揮官ハ指揮下編入各部隊ノ現ニ準備又ハ實施中ノ作戰輸送竝ニ空輸ニ關シテハ既令ニ依ル當該任務ヲ繼續セシメ右完了ヲ俟ツテ本令ニ依ル任務ニ移行セシモノトス
- (ロ) 聯合艦隊電令第四七五號ニ依ル補給機空中輸送統制ニ關スル第五十一航空戰隊司令官ノ擔任任務ハ既令ノ輸送完了時機ヲ以テ之ヲ解ク



一〇二九
二九八
受傳
始〇〇二〇一〇〇

丁〇三四六
電一五〇七四
作・航本

至急親展扱

大統

長臣

局長	課長	A	L	高
B	K	E	I	福
J	C	G	H	三
F	D			

機密第二八二〇二四番電

今次ノ米機動艦隊及B-129來襲ニ依ル本府各廳被害概況左ノ通
 目下極力分散復舊ニ努メツツアリ(廳名施設機能減少率)
 第六十一航空廠本廠九〇%八〇%同東港支廠一%同新竹支廠一〇〇%
 一〇〇%馬公根據地廠司令部五〇%五〇%第九五三海軍航空隊東港
 航空基地二〇%六〇%同第三〇航空基地三〇%九〇%同第五三六海軍
 航空隊五〇%三〇%工作部馬公本工場三〇%二〇%同高雄分工場二〇%
 〇同馬公出張所四〇%三〇%佳冬航空基地一

通一八五一〇 呂一Bヲ十五(四七〇五)高雄

海

電

第十信課

976

其ノ他被寄ナシ。
%三%陸海軍部一%一%病院一%○第六歳料額○五%○

海軍

第十倍線

一〇二九 受 始信 〇〇一五 譯了 〇四二〇 電一五〇七五 B作 二保

陸海

大總	長	横	一課長	島	根	島	赤城		
				A	B	E	J	G	H

海上護衛總口・聯合艦隊口・横防戦口・横須賀防備隊
五十二航空基地・母島航空基地

機雷敷設

機雷第二八二二二〇番電

父島近海要地所定ノ基線（小笠原部隊命令作第七二號）機雷敷設ヲ終了セリ

但第一機雷群ハ二線敷設トナシ第二機雷群（巽灣口）ハ敷設ヲ當分延期ノコトトセリ
右ノ内東海方面ノモノハ大半切斷浮流ノ疑アリ（今日迄父島海岸漂着ノモノ二五個）。

通一八五一四 留A（五一〇〇K）父通

3

緊急親展

一〇三〇

受信開始 二三四八 譯了 二三〇九 電一五八二六

官令 房副

第十課

次次

局長	
一課長	
二課長	
三課長	
四課長	
五課長	
六課長	
七課長	
八課長	
九課長	
十課長	

基地

機密第二九〇七三七番電

發 第二艦隊長官

參謀長小柳(二四〇)右臀部爆彈彈片創兼右大腿挫傷ニテ全治ニ約二ヶ月入院ヲ要ス

通一九四七二

呂四〇呂三六(七四六五)三一海軍

軍

作

親展
二九

受信
〇九四〇五

譯丁
一〇四〇 電一五一六一

陸持
政貨

● 第一連隊部管下・第二連隊部管下

● 東 通

陸軍部

機密第二九〇A〇二番電

發 函西方面艦隊參謀長

送報 軍務局長・艦政本部總務部長

二十九日五五ニ於テ中央艦隊ト貴艦除損修費（油糧船ヲ含ム）ノ修
理ニ關シ打合ヲ行フニ付修理地ノ決定修材ノ準備等ノ資料トシテ左
記至急通知方取付ハレ度

一、損修ノ情況

通一八六四六 口一日ヲ十五（八八八四〇）三一海海

軍（一）

第拾
二倍
銀課

三、應急作業ニ依リ復舊ノ現状
ヲ所在及今後ノ行動豫定。

海

軍

第十
課

作

親展

受信一〇九四〇五 轉了一〇一五 電一五一一五 作△

● 鹿島・吳鎮
● 大海參一部

機密第二九〇九一二番電

聯合艦隊電令第五〇二號

十月二十八日附鹿島ニ對スル本隊ノ指揮ヲ經キ同艦ヲ原隊ニ復歸ス。

局長	✓
課長	○
A	L
B	K
E	I
J	O
G	H
F	P

第十信課

通一八六四五 四二四ノ十五

海軍

781

作

親展

局長	局長	局長	局長	局長
局長	局長	局長	局長	局長
A	B	C	D	E
F	G	H	I	J
K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T

五三二四

航作

本△

攻撃部隊

鹿屋航空基地

大海参一部・聯合艦隊

航空隊

機密第二九一一三九番電 二分ノ二三

攻撃部隊電令作第五二號

攻撃部隊ノ基地配備配備細別左ノ通り

(1) 基地配備區分(基地配備區分、運用時後ノ順)

- 第一配備、待機訓練ノ場合
- 第二配備、敵機動部隊攻撃ノ爲
- 南九州地区ニ移動爆撃訓練スル場合
- 第三配備、敵機動部隊
- ニ對シ避退(攻撃部隊)スル場合

第一八七六一・一八七六七

日二日ヲ十五(七五〇五隊)鹿屋空

海

軍

第十課

○(四) 陸備ノ細別(飛行隊第一第二第三第四配備ノ順)

鹿屋 太刀洗 濱松・K五〇一 豊橋(整理後新田原) 豊
 橋 宮崎(新田原) 大村 豊橋・K七〇三 宮崎 宮崎
 出水 鈴鹿 攻・K二六二 豊橋 鹿屋(新田原) 大村 豊
 橋・七〇 宮崎 宮崎 隈ノ庄 濱松・K一一一 鹿兒島(整
 理後大部鹿屋) 鹿屋 大隅田 鹿屋 一部鹿兒島 鈴鹿
 K〇一空 鹿屋(指宿) 同上 同上 同上

電
信
課

海
軍



1030 開始 1130 終了 1155 作保

局長	一課長	二課長	三課長	四課長	五課長	六課長	七課長	八課長	九課長	十課長

機密 二九一三三八番電

陸 杉 運 送 員

一、杉、桐、中、平、二十九日一三〇〇艘、三十日〇八〇〇艘後水道を通、一六〇〇吳港、後定
二、室戸乗員隊長以下一五八名便乗。

海軍 一五一九五 呂一五、ラ一五、B、吳通

第十信課

二〇〇 北緯五度二分 東經一〇七度二分 二月十五日三〇時
 三度四分 一〇四度五十分 二〇三〇 北緯二度四分 二〇
 四度四分

第十頁

海

馬

130

緊急親展

〇〇三〇

受信 三三五五
開始 三三四七

三三五八 電三五八三一

人

第十信課

局長	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)
一課長	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)
(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)
(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)
(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)
(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)
(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)	(印)

第三海軍戦隊

艦艇軍機秘

機密第三〇二〇二〇番電

南西方面艦隊參謀長

人事局長

大川内中將又三少將

海軍

480

作

一〇三一
受信始 〇〇三三〇三
了 〇三四〇 電一五九六五 作保
軍 備

作

無線電所用共通符號

親展

● 海上護衛艦中・聯合艦隊中・佐領・吳鎮
● 機動部隊中

機號

機密第三一〇一〇〇番電

機動艦隊補給部隊指揮官

〇〇三九高米丸第三回目ノ機密ニ依リ送ニ沈没ス。

局長	
一課長	
A	L
B	K
E	
J	C
G	H
F	D

通一九六二七

天B

B

佐

海

軍

電十信課

額支給代用食供食等實施スルト共ニ戰備作業ニ支障ナキ範圍ニ於
 テ現地自活方策ヲ講ジツツアルモ
 一 對策實施スルハ明年夏季頃ニ付情勢之ヲ許スニ致ラバ主食品補給
 方配慮ヲ得度
 二 高角砲發射數ハ一門宛僅ニ六〇發ニ付一發必墜ヲ類スル場合ノ外
 射線ヒシノズ極力節約ヲ圖リツツアルモ空襲ノ現狀ヲ以テスレバ
 一ヶ月以内ニ射チ盡ス實狀ニアリ。

海軍

局長	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一
十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二
二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三
三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四
四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五
五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六
六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七
七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八
八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九
一百										

第十信課

緊急親展

一九一〇三一

〇〇〇一八〇

作保△

共 答

- 第一南支那艦隊司令部・海軍省
- 大連司令部・第二海上艦隊司令部・第三海上艦隊司令部・第四海上艦隊司令部・第五海上艦隊司令部・第六海上艦隊司令部・第七海上艦隊司令部・第八海上艦隊司令部・第九海上艦隊司令部・第十海上艦隊司令部

軍極秘

機密第三一二〇三七番電

海軍省 海軍省参謀長

比島方面戦局ニ鑑ミ速ニ南支那海西岸ニ於ケル護衛力強化ノ要ナルヲ認メ、最近ヨリG且B内地所在航空兵力ヨリ護衛力六機ヲ三至ニ三坐本偵六機ヲカムラン（又ハキノン）ニ機用一海軍護衛部隊ニ編入經機ヲ考慮サレアル處、現地ニ於ケル航空兵力ニ、陸軍集積ノ現狀、通信施設

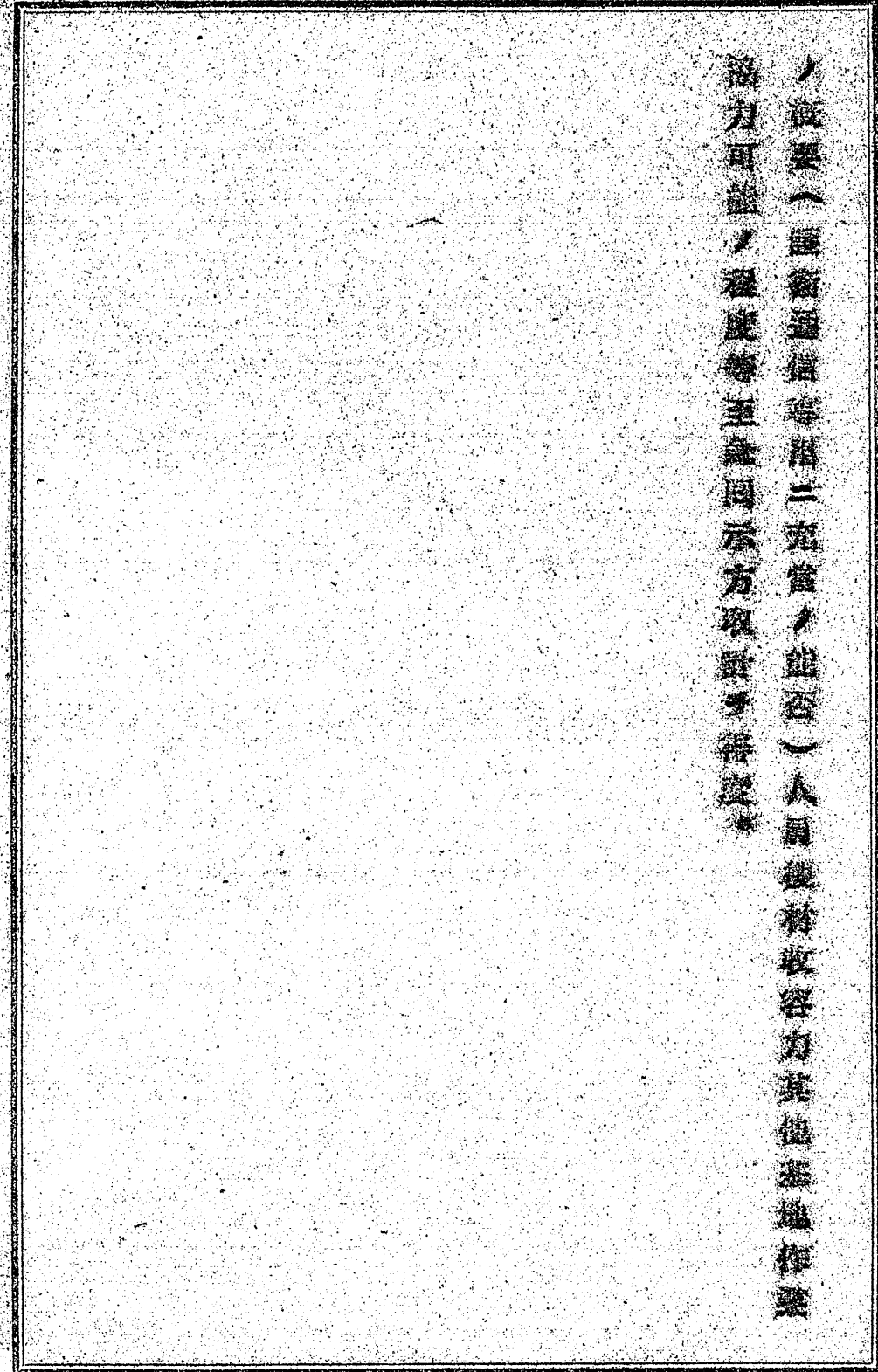
通三二八六

呂三

海

軍

790



ノ結果一國領土擴張等事ニ注意ノ能ク一人員増殖收容力其他諸地等
 取力可能ノ程度等至急調査方取置ヲ待テ

第拾
 二回

海

軍